

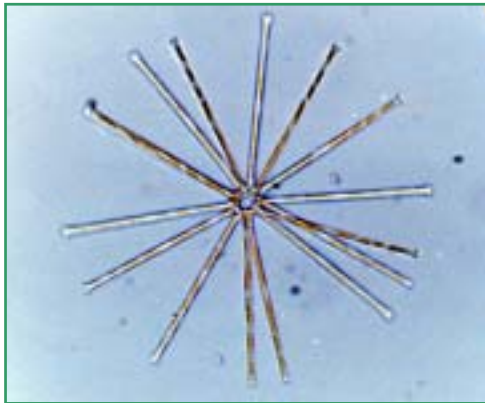
瀬田川プランクトン調査結果速報

～ 第44報 ～

滋賀県立衛生環境センター
琵琶湖水質担当
平成15年2月3日

1. 最も数が多かった種類（優占種）

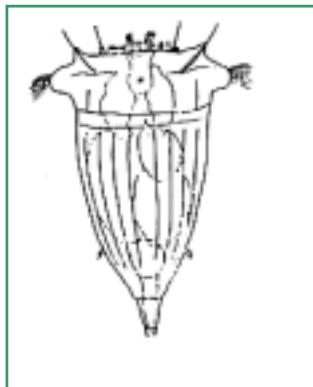
植物プランクトン第1優占種



Asterionella formosa
(ホシガタケイソウ)
珪藻綱

4～32個の細胞が端で接着し、ホシガタの群体を作る。細胞の殻面を見ると(通常は殻環面が見えている)両端が丸くなった長い棒形をしている。琵琶湖では以前から多く見られ、近年では1990年3月～4月に優占種となった。

動物プランクトン第1優占種



Synchaeta oblonga
(ナガマルドロワムシ)
輪虫類

体は円錐形で足は短く、先端の爪は微小である。体長は225～345 μm。体側は縦の条線があるのが特徴である。

コメント

植物プランクトン総細胞数は、先週に比べて少なかった。その中で、引き続きホシガタケイソウは多く見られた。動物プランクトンも少なく、ナガマルドロワムシとタマゴガタエナガワムシが多く見られた。後者のワムシは池沼の水草の間に普通に見られるが、瀬田川のプランクトンとしては、比較的珍しい種類である。

2. 見つかった主なプランクトンとその数（個体数）

(1) 動物プランクトン

第 1 優 占 種		個体数 (個体 / l)
輪虫類	<i>Synchaeta oblonga</i>	100

第 2 優 占 種		個体数 (個体 / l)
輪虫類	<i>Monostyla bulla</i>	60

* 個体数については、プランクトンネットで採取したものを直接検鏡して計測した。

瀬田川植物プランクトン調査結果速報

滋賀県立衛生環境センター
琵琶湖水質担当
平成15年2月3日

第44報

(2) 植物プランクトン

(綱) 種 名	細胞数 (群体数)	優占種(占有率)	
		数	体積
(黄鞭) <i>Mallomonas akrokomos</i>	10		
(珪) <i>Cyclotella glomerata</i>	95		
(珪) <i>Fragilaria crotonensis</i>	17		
(珪) <i>Asterionella formosa</i>	130		
(珪) <i>Synedra</i> sp.	10		
(珪) <i>Gomphonema</i> sp.	10		
(珪) <i>Nitzschia acicularis</i>	20		
(珪) <i>Nitzschia</i> sp.	20		
(渦) <i>Peridinium berolinense</i> var. <i>apiculatum</i>	10		
(褐) <i>Cryptomonas</i> sp.	40		
(褐) <i>Rhodomonas</i> sp.	100		
(み) <i>Trachelomonas oblonga</i>	30		
(緑) <i>Scenedesmus</i> sp.	50		
(藍) 藍藻綱	0	0.0	0.0
(黄) 黄緑藻綱	0	0.0	0.0
(黄鞭) 黄色鞭毛藻綱	10	1.8	3.7
(珪) 珪藻綱	302	55.7	53.4
(渦) 渦鞭毛藻綱	10	1.8	3.4
(褐) 褐色鞭毛藻綱	140	25.8	36.2
(み) みどり虫藻綱	30	5.5	1.3
(緑) 緑藻綱	50	9.2	2.0
(他) その他のプランクトン	0	0.0	0.0
総 細 胞 数	542	総体積 (μm^3)	2.35E+05
種 類 数	13		

- 注1) 細胞数の単位は(細胞 / ml)
ただし*印の種は群体数(群体 / ml)
- 注2) 優占種は が第1優占種、 が第2優占種
数字は各綱ごとの占有率(単位: %)
- 注3) 細胞体積は、顕微鏡観察による画像から
試験的に推定した概算値である。